

猪苗代湖ボーリングコア試料の岩相と層序 Stratigraphy and lithologic features of the drilling cores from Lake Inawashiro, Tohoku, Japan.

廣瀬 孝太郎^{1*}, 長橋良隆¹
Kotaro Hirose^{1*}, Yoshitaka Nagahashi¹

¹ 福島大学共生システム理工学研究科
¹ Fukushima University

猪苗代湖の湖底には、過去数万年間の古環境についての記録-気候変動や周辺域の火山活動、近過去の人間活動の影響-が連続的に保存されている。本研究では、猪苗代湖の最深部近傍、水深約90mの地点において2孔のコア (INW2012-1, 2) を掘削した。

コア試料は、岩相により深度0.0-24.4m (Unit 1) と深度24.4-28.0 m (Unit 2) に区分された。Unit 1の主要部は、直径0.5-2 mmの黒色の顆粒を含むオリブ灰-灰色の泥 (以下、明色部と表記) と、黒色の泥 (以下、暗色部と表記) からなる縞状の互層であり、これらはいずれの層準においてもほぼ水平に累重した。Unit 1の明暗の互層中には、これらとは岩相により明瞭に区別される粗粒砂-泥の層を複数挟み、これらは約5400年前の沼沢-沼沢湖テフラ層 (山元, 1995)、約3万年前の始良-Tn火山灰層 (町田・新井, 1976) 等の火山灰層や、洪水等によって形成されたイベントに性の堆積物であると考えられる。Unit 2は、淘汰の悪い細礫-粗粒砂と、木本と考えられる植物遺体および明灰色の泥の偽礫をパッチ状に含む粗粒砂-シルトからなり、ユニット全体では上方に向かって細粒化する傾向を示した。

講演では岩相の詳細、堆積年代、予察的な化学・珪藻分析結果についても述べる。

キーワード: 猪苗代湖, 岩相層序, 火山灰, 古環境解析, 珪藻群集, 化学組成

Keywords: Lake Inawashiro, lithostratigraphy, tephra, Paleoenvironmental change, diatom assemblage, chemical components